

健康新聞
おおさと

【発行】
2018年(第51号)
医療法人ウエルネス
TEL 64-3110

旧東海道グルメ旅

～滋賀から京都～

院長 大里 裕治

皆さん明けましておめでとうございます！今年も「おおさと新聞」をよろしくお願い致します。

いよいよこの旅も最終章です。2015年1月初めの寒い日に、前回終わったJR手原駅から京都に向けて旅を再開しました。

栗東(りつとう)市にある手原駅からしばらく歩くと「老牛馬養生所跡」と書いてある立て看板があった。その昔、東海道と中山道(なかせんどう)が集まる「草津宿」に近かったため、ここに老牛馬の余生を静かに過ごさせる養生所を設立し老牛馬を収容し養生させたらしい。競馬ファンならご存知だろうが、栗東市と言えば東の美浦(みほ)(茨城県)、西の栗東と言われる競走馬のトレーニングセンターで超有名な場所だ。こんなところに栗東の馬育成の歴史があったのだと小さな発見に満悦の表情を隠せなかった。

マンホールに「東海道と中山道・街道文化の薫るまち」と書いてある草津市に入り、中山道との分岐点「草津追分」の道標(みちしるべ)を過ぎ

草津宿の「草津本陣」に至る。ここは現存する東海道の宿場本陣では最大級の当時の建物が残っていて、往還する旅人が多かったため宿帳にも多くの有名人の名前が残っているそうだ。浅野内匠頭(あさのたくみのかみ)と吉良上野介(よしかとうすけ)のすけは偶然にも9日違いで宿泊していたという面白い記録がある。他に徳川慶喜(けいぎ)(あつひめ)、近藤勇(よゆう)、土方歳三(ひじかたとしぞう)、シーボルトなどの名前も残されている。

お昼時になったので、「ラーメン名門 南草津店」というお店で昼食をとることに。ここで夏であれば生ビールも、ということになるのだが寒いのでとんかつしょう油ラーメンと炒飯だけで腹ごしらえを。満腹になつてしばらく行くと大きな池が見えて来る。浮島に弁天様が祀られている弁天池だ。そのほとりではしし休息をとり、やがて53番目の最後の宿「大津宿」がある大津市に入る。

瀬田川に架かる「瀬田(せた)の唐橋(からはし)」(写真①)は、京へ向かうときの軍事上の要衝であったため「唐橋を制する者は天下を制す」と言われ、源平合戦・応仁の乱・本能寺の変など戦乱の度に焼け落ちたらしいが、現在は車も通る鉄製の橋になっている。擬宝珠(ぎぼうしゅ)という変わった形の欄干が唐橋と呼ばれる所以(ゆえん)らしい。橋を渡り古い商家や旅館が建ち並ぶ通りを抜け、琵琶湖の南岸に沿って進むと義仲寺(ぎちゆうじ)がある。信濃で挙兵した木曾義仲(きそよしなか)は京に入ったが宇治川

の戦いで敗れ、源頼朝と義経に追われこの地で果てた。女ながらに男勝りの闘いを見せた巴御前(よつね)ともえごせんは義仲公の墓所の隣に草庵を結び亡くなるまでここで供養したと言われ、その跡に後世この寺が建立されたのだという。大津宿は当時53の宿の中で最大の人口を抱える大都市であった。しかし現在本陣跡には案内板があるだけで、その面影はない。そこを過ぎると道は「逢坂の関」に向かつてなだらかに上っていく。

今日はここまでとしJR大津駅から宿泊先の京都駅へ向かい、それぞれ宿泊先のホテルで一旦チェックインして再び集合。明日のゴールを見届けるために京都まで来てくれた家内とも落ち合い、最後のグルメ夕食となる「京料理 修伯(しゆはく)へ」「八坂の塔(やさかのとう)」の呼称で有名な法観



写真① 瀬田の唐橋

寺の五重塔を見上げながら東大路(ひがしおおじ)から上つて行くと、八坂の塔の手前の通りの角にある京料理では有名なお店。カウンターに座つて板前さんたちの包丁さばきと出される料理の創作過程を、お酒を片手に眺めるのも楽しいものだ。先ず前菜に出されたのは「野菜盛り込み」。19種類の野菜にそれぞれ下味が付けられていてそのまま美味しい。特にインカのめざめというジャガイモは高級品種で栗のような色と食感・甘さがある。ロマネスコというカリフラワーの一種や千代呂木(ちよろぎ)という細長い巻目の形に似た根菜、ゆでると果肉の繊維が黄色い素麺(そうめん)のようになる素麺南瓜(そうめんかぼちゃ)など珍しい野菜が沢山使われている。他に菊芋(きくいも)や蓮芋(はすいも)など中々お目にかかれないものがあり、「これは何ですか?」と板前さんに尋ねながら食べていく内になくなってしまった。京料理と言えどもやはり日本酒でしようと、京都の地酒を冷やで頂きながら次の料理を待っていると、次は「気仙沼産のフカヒレと長崎産ぐじのかぶら蒸し」とのこと。ぐじという魚を知らないので尋ねると、アカアマダイのことを京都ではぐじと言っらしい。カブをすり卸したものをそれに掛け蒸した料理がかぶら蒸し。とろとろのフカヒレ、ぐじの甘い白身があつさりしたカブおろしに合う〜! いつもより酒が進むのも致し方ない。

次はお造り。山口産天然フグ刺しと焼き白子、更に富山産天然ぶりのハラミと長崎産サワラを辛味大根で頂き、最後はゴツペガニ? またま

た「これは何ですか?」と尋ねたら、メスの松葉ガニのことを京都ではゴツペガニと呼ぶらしい。小ぶりの甲羅の中にほぐしたカニの身と外子・内子と呼ばれる卵巣が入れてあり、上からジェルにした土佐酢が載せてある。「最高〜! またまた酒に合う〜!」しばらく冷たいものが続いたので、次はお口直しに京都らしく白みそ仕立てのお雑煮。ほんのり甘い白味噌とお餅の相性がバツチリだった。酢の物に出されたのは、琵琶湖産の本モロコの甘酢漬けと長崎産のサバの棒寿司、こゝでも長崎産の魚が出て来た。私達が長崎から来たことを知らない板前さんがしきりに長崎の魚が美味しい事を力説していたので、口では「へえ〜!」と言いながら、腹の中で「知ってるし...」と思いつつ聞いていた。モロコという小さな魚の甘酢漬けも美味で、聞いたところでは本モロコは琵琶湖だけにいるコイ科の小魚だそう。メインの焼き物も琵琶湖産天然大ウナギのかば焼きだ。白い米に合いそうと思っていたら、ちゃんと炊き立てのご飯が出てきた。それも店の入り口に置いてあつた羽釜とかまどで炊いた本格的なご飯で、おこげも少し入って最高だった。付け合わせのだし巻き卵や赤だしの味噌汁だけでも大満足だったのに、デザートがまた豪華。自由にお変わりが出来るフルーツポンチの他に、5種類のデザートから何種類選んでも構いませんと言われたが、もうかなり満腹になっていたの冷たいお汁粉、アイスクリーム、最中を頼んで皆でシェアして頂いた。「ご馳走様でした〜!」いつ来ても京都の料理には満足させられる。

翌朝電車で大津まで戻り、いよいよゴールを目指す。大津宿をスタートして直ぐ、線路沿いに「関蟬丸神社」が見えて来る。「これやこの行くも帰るも分かれては知るも知らぬもあふ坂の関」と蟬丸が詠んだ「逢坂の関」は坂道を上りつめたところにある。山城国(京都)と近江国(滋賀)の国境の峠にあつた関で、「男女が逢う」にかけて百人一首などの恋の歌に使われたという。小学生の頃に、正月親戚が集まるとよく百人一首で遊んでいた。その中に蟬丸以外にも「あふ坂の関」を詠んだ和歌があつたのを思い出した。「夜をこめて鳥のそら音ははかるとも世にあふ坂の関はゆるさじ」(清少納言)「名にしおはばあふ坂山のさねかつら人に知られでくるよしもなが」(三条右大臣)など、当時詠み手や取り手となつてよく目にしていた「あふ坂の関」は子供心に「大阪の関」だと思っていたが、今回の旅でその地を訪れることができ長年の謎が解けてすつきりした。

道は下りに入り、山科の追分という街道の分岐に至る。京都を通らず直接大阪へ行きたい者はここから南下して行ったそうだが、当然直進して京都を目指す。山科の商店街を抜けると再び細い道で上りになる。車1台がやっと通れる道をしばらく進んで国道1号線に合流したあとは三条大橋まで一本道だ。国道を上つていくと正面に南禅寺の大きな屋根が見えて来る。

周りは山の風景だが、少しずつ京都の街が近づいているのがわかる。やがて左手にきれいに整備された蹴上浄水場が現れた。琵琶湖からの



写真② きんし井

水を浄水して京都の街に給水しているところだ。桜やツツジの季節はきれいだろうなあと思いを巡らしながらその横を通り過ぎると都ホテルが見えた来た。私の家内と相棒の奥さんと小学生の娘さんと、ここで待ち合わせて一緒にゴールを目指すことになっている。残り2km程の三条通りを連れ立って歩くこと30分、鴨川に架かる三条大橋に遂に到達。橋を渡り東側の川端に建つ弥次さん喜多さん像の前で記念撮影をして、約500kmに及ぶ「旧東海道グルメ旅」は終了となった。安堵と寂しさで橋を何度も振り返りながら、旅の終わりの恒例行事、ウナギを食べに今回は5人で「日本一の鰻」の暖簾がかかる創業100年の老舗「かねよ」へ向かう。うなぎの骨せんべいをアテに生ビールで完歩を祝して乾杯！この名物の「きんし井」へ写真②を注文してみると、井の器からはみ出すほどの一辺

20cm四方の卵焼きが表面を覆って出て来た。卵焼きをめくってみると下はいわゆるうな井になっている。旧東海道グルメ旅の最後に相応しい豪華なべの食事となった。
足かけ5年、途中東日本大震災で中断したり、台風で行く手を阻まれたり、道に迷って数kmも戻ったり、危なく熱中症になりかけたりと色々ありましたが、とても貴重な経験が出来た楽しい旅でした。
またいつか機会があったら、京都側から日本橋まで今度はゆつくりと周りの景色を楽しんだり、回り道や道草をしてその土地や人々に触れたり、歴史物を訪ねたりしながら歩いてみたいものです。またその時は、皆さんに旅の話をお聴いてもらいたいと思います。
長い間、拙い文章にお付き合い下さりありがとうございます。ありがとうございました。



新人紹介

馬込 武 (通所送迎)



以前から、リハビリに通う方々の送迎を希望していたので、今の仕事に就けて有難く思っています。安全運転を心がけて頑張りますので、宜しくお願致します。

藤川 杏奈 (リハビリ助手)



去年の十一月中旬からこちらで働かせていただいています。不安な事はありませんが笑顔を忘れずに一生懸命に仕事に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願致します。

松本 静子 (清掃)



去年の十二月から清掃員でお世話になってます。まだ不慣れな為、掃除のいきとどかないところもあると思いますが、頑張っていきますのでよろしくお願致します。



芋掘り・・・
今年もたくさん
収穫できました。



福はく内

鬼はく外



永年表彰